

## 令和7年度 キッズフロンティアII番館(児童発達支援)自己評価総括表

○保護者評価実施期間	2026年3月1日 ~ 2026年3月16日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	31	(回答者数)	20
○従業者評価実施期間	2026年3月1日 ~ 2026年3月16日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月20日			

### ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	支援の記録や報告にかかる事務作業が多く、直接的な関わりや振り返りの時間が十分に確保しにくい状況がある。	手書きや個別のフォーマットが混在しており、記録の集約・共有に余分な手間が生じている。	記録様式の統一と電子化を進め、事務負担を軽減することで、支援の質向上に充てる時間を確保する。
2	新しく入職したスタッフが独り立ちするまでのサポート体制が体系化されておらず、育成の進み方に差が生じやすい。	OJTが先輩スタッフ個人の裁量に依存しており、指導のムラや引継ぎロスが発生しやすい環境にある。	育成チェックリストと定期面談の仕組みを整え、入職後3か月・6か月のマイルストーンを設けて着実な成長を支援する。
3	地域の関係機関との情報共有や連携会議への参加が、繁忙期には後回しになってしまうことがある。	各機関との窓口担当が明確でなく、連絡・調整の漏れが生じやすい構造的な課題がある。	担当者を明確にした連携マップを作成し、定期的な情報交換の場を設けることで、地域ネットワークを強化する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	送迎の対応時間が集中するため、帰宅後の保護者への報告や引継ぎが短時間になりやすく、伝達内容が不十分になることがある。	送迎業務とその後の記録・報告が重なる時間帯に、スタッフの負担が集中しやすい構造的な課題がある。	送迎担当と室内担当を明確に分け、引継ぎ時間を確保することで、保護者への丁寧な報告を実現する体制を整える。
2	高学年と低学年のお子さまが同じ空間で過ごす時間帯があり、活動内容や関わり方の調整が難しい場面がある。	異年齢混在の時間帯における活動設定のノウハウや引継ぎが十分に整備されておらず、スタッフの判断に委ねられやすい。	年齢・発達段階別のグループ活動の時間設定を見直し、それぞれに合ったプログラムが提供できるよう環境を整える。
3	個別支援計画に基づいた目標の達成状況の確認が、保護者や本人へ十分にフィードバックされていない場合がある。	計画の評価・振り返りが事業所内で完結してしまい、保護者や関係機関との共有が後回しになりやすい。	半期ごとの報告書を作成・共有する仕組みを整え、目標の進捗を保護者と共に確認・更新できるプロセスを確立する。